

2024
下半期号

トライアングル

発行日／令和7(2025)年2月 発行／一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者／村上利男 編集／松嶋桂子
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp

冰山モデルで考える！

～豊かな生活に繋ぐ
ための大切な視点～

強度行動障がい・自閉スペクトラムの方への支援を考える際に、「支援方法を共有することが難しい」「どのように考えたら良いのか分からない」などの意見を聞くことがあります。そこで今回の特集では、行動の背景や支援内容を考える際に必要な視点となる『冰山モデル』について振り返り、冰山モデルから実践されている2事例について紹介させて頂きます。

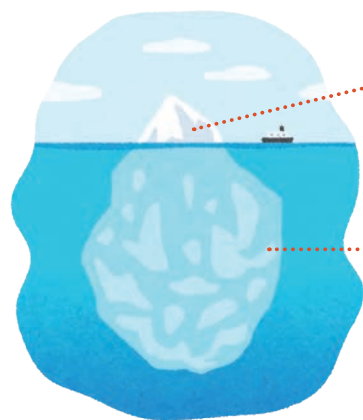
冰山モデルとは、障がいのある人の行動の背景を氷山の一角としてとらえ、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援を考える視点です。【図】にあるように、見えている部分を利用者の行動として整理することができず。しかし、その原因や背景、利用者の事情は水面の下に隠れていて、分かりにくいことがあります。ただ見えている部分だけをとらえて行動を止めたり注意しようとする、氷山の下にある本質的な問題を整理することができません。水面の下に隠れている、利用者を取り巻く困難な状況を、私たち支援者がきちんと把握する必要があります。

また、冰山モデルで障がい特性と環境を把握することで、利用者の強みや活かせる場面を整理することができず。たとえば「特定の物に固執する」という行動があった時に見方を変えれば、「興味関心のあることには集中できる」と強みとしてとらえることができ、支援の考え方が変わります。

しかし、支援の現場では冰山モデルを通して事例検討を行ってもうまくいかない事例がたくさんあるかと思えます。強度行動障がいという状態に対してやみくもに関わり続けることは、かえって状態を悪化させる場合もあり、ある支援者はできるだけ、別の支援者だとうまくいかないことも起こります。支援を長く継続していくためにも、私たち支援者が特性を理解し、利用者に寄り添い、支援者間で共通認識をもつことが大切だと考えています。

(広報委員 吉村周二)

【図】 冰山モデル



見えている部分

見えていない部分

● 利用者の行動

例：大きな声をあげる 人を叩く
人の物を盗ってしまう
違う作業をしてしまう など…

● 原因や背景

例：見通しが立たず不安・混乱

何をすれば良いのか分からない
言われている意味が分からない
感覚刺激が不快 など…

● 利用者の事情

冰山モデルで考える！ ～豊かな生活に繋ぐための大切な視点～	1
「千里みおつくしの杜」を訪問して	2
門真共生福祉会 Tさんの支援について	3
●ちょっとつばきりレー	
中津学園 児童指導員 守屋大樹	4

● REPORT ●	
第58回大阪フレンドシップソフトボール大会	4
令和6年度研修報告	4
第42回スポーツフェスタ2024大阪	4
広報委員会のメンバーが変わりました！	4

「千里みおつくしの杜」を訪問して

「大阪府重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業」にも参加されている社会福祉法人英芳会の障害者支援施設千里みおつくしの杜を訪問し、施設長の神岡良輔氏よりお話を伺いました。

千里みおつくしの杜には、「かしのみ寮」という知的障がい者対象の入所施設があります。入所者のうち強度行動障がいの方が34名と大多数を占めています。令和6年5月に大規模改修を終えて、氷山モデルにおける環境要因の変化をどのように感じているか伺いました。

改修前は強度行動障がいと要介護の利用者さんが同居している状態でしたが、大規模改修で両者の生活範囲を分けました。それによって、利用者さんに加わる刺激を減らし、それぞれが落ち着ける場所ができました。日中活動と活動場所を組み合わせる事ができ、問題行動の低減につながりました。（スケジュール写真）

改修前は、怪我や事故が起これないようにと比較のおとなしい利用者に我慢してもらって、強度行動障がい

の利用者に合わせてもらうこともあったそうです。しかし、活動範囲を分けることで、おとなしい利用者さんにもそれぞれに楽しいことを提供しようと思う余裕ができたと話されていました。

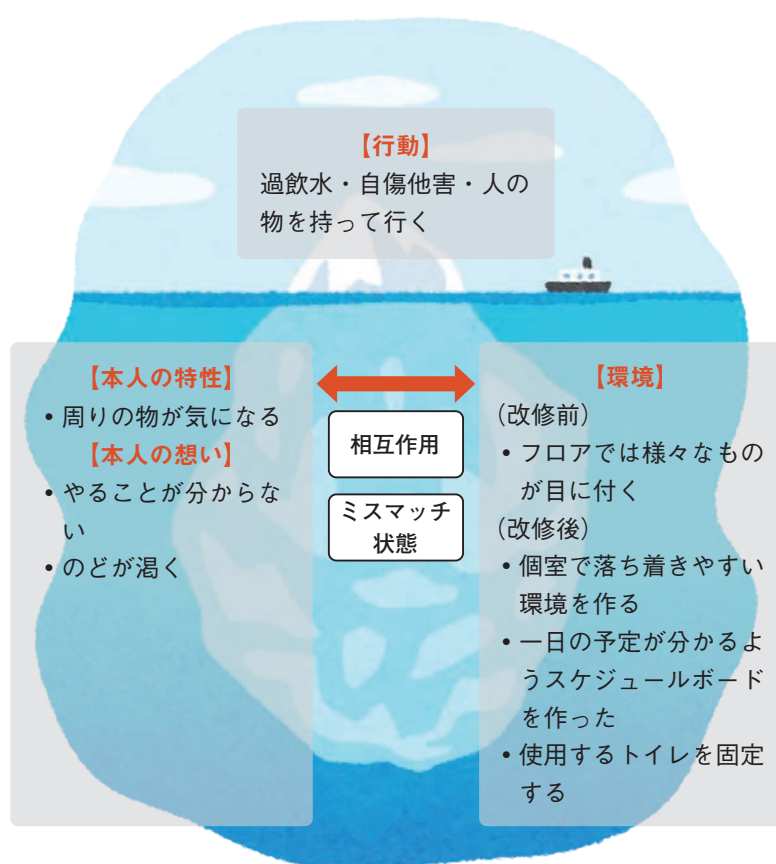
前述の「体制整備事業」に参加されている感想も聞きました。「ケースについて以前は担当職員ひとりに大きな負担がかかっていたが、学んだ障害特性の理解や氷山モデルの考

え方を踏まえて、コアメンバーが助けてくれるようになってきた。ゼロから1歩踏み出す職員が出てくるようになった。」と職員の気持ちの変化を感じておられました。

氷山モデルにおいて環境を調整することは大切だとされています。今回、かしのみ寮では、大規模改修と

いうドラスティックな環境変化が行われました。その結果として、利用者の生活ルーティンが変わり、特性に応じた活動を落ち着いた環境で提供できる時間が増えたとのことでした。

（広報委員 奥野恵廣、武藤直弥）



門真共生福祉会

Tさんの支援について

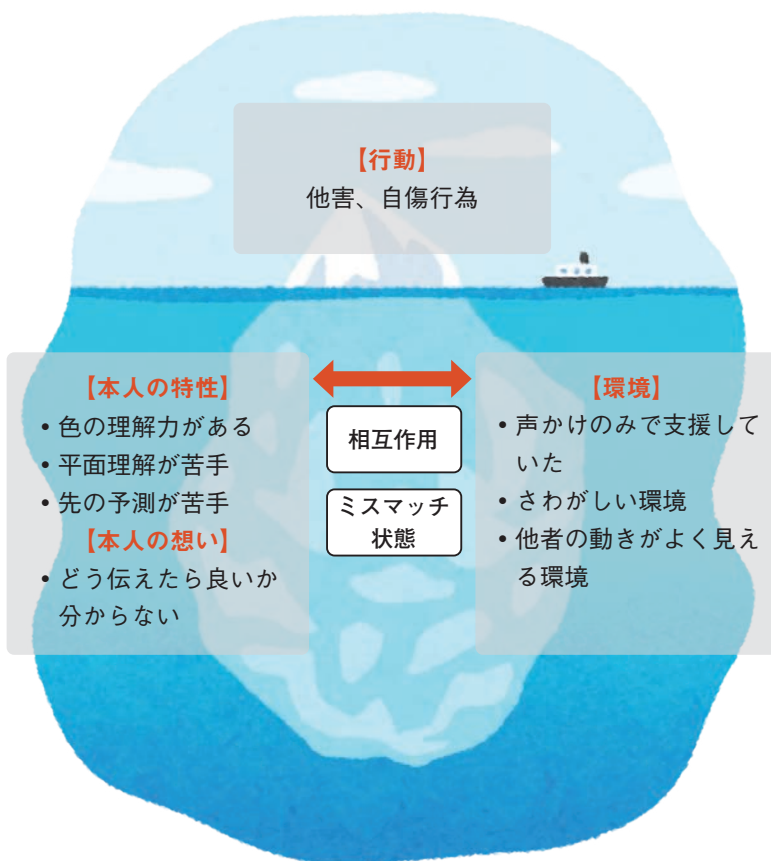
今回は私の勤務先の門真共生福祉会に在籍されている、Tさんの支援について紹介させていただきます。当施設では、強度行動障がいの方の支援に対し、行き詰まりを見せていました。そこで「大阪府重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業」に参加させて頂き、強度行動障がいについての知識を学ばせて頂きましたので、知識を共有できたらと思います、執筆させて頂いています。

Tさんの主な問題行動は他害、自傷などでした。自分達なりにスケジュールを提供などさせて頂いていただきましたが、知識がなかった故に上手くいかず、声掛けのみで支援している状況が続いていました。そこで前述の「体制整備事業」にて、Tさんの問題行動の背景には何があるのかということ、氷山モデルで分析することになりました。それが下の図になります。問題行動の背景にはこれだけ理由があり、Tさんにとつての、難しいことが沢山隠れていました。その中に、平面理解というものがありました。そこで、今まで

の写真を使ったスケジュールではなく、立体スケジュールなら理解してもらえ、可能性があるのではないかと職員から意見が出ました。また、Tさんには色の理解力があることが強みとして分かっていたので、それらを組み合わせ、写真のような棒スケジュールが完成しました。白II作業、青II休憩を表しています。これ

により、まだまだ改善の余地はあるものの、作業ができなかった以前までと比べて大幅に他害や多動が減りました。他害などの問題行動にだけ焦点を当てるのではなく、その背景を分析することの大切さを学ぶことが出来ました。この過程が少しでも参考になればと思います。

(広報委員 宮崎恭平)



門真共生福祉会を見学して

その方に合う支援を見つけるため、上手いかわからないことを経験しながらも諦めずに試行錯誤され作り上げられたことに感銘を受けました。(広報委員 山本恵)

支援において、口頭説明は各職員で言葉にズレが生じるため、動作のみで手順等を説明して統一を図ると伺い、チーム支援の大切さを感じました。(広報委員 丸谷昌広)

中津学園 児童指導員
守屋大樹

はじめまして。中津学園・児童指導員の守屋大樹です。



大阪市内にある中津学園は福祉型の障がい児入所施設で、小学生から高校生の児童が一緒に生活しています。

今回は私が担当している器楽の活動を紹介します。器楽は、児童の有志が歌や踊りや演奏の発表をする活動で、現在は7人が所属して、行事などで発表しています。執筆中の今はクリスマス会に向けて練習しています。練習では、みんな気が逸れることが多く、集中せず遊んでしまうことがよくあります。ところが本番では、とても真剣に取り組みます。そして本番に強い!! 園長や先輩に聞けば、なんと代々、本番には強いとのこと。純粹に取り組むところに感動しながら、なぜ本番に強いのかと、本番に弱い私は思っています。

中津学園は現在、園舎建て替えの為に仮園舎で暮らしています。次の春に新園舎が建ちます。新園舎でも器楽のメンバーが活躍することを想像しながら、残り少ない仮園舎での生活を送っています。

次回は門真共生福祉会の調理士の方をお願いします

REPORT

第58回大阪フレンドシップソフトボール大会

6月6日、16チーム、総勢180名の選手が参加され、4リーグに分かれて交流戦が行われました。各リーグともに白熱した戦いが繰り広げられました。

ヒットで出塁した選手がベース上で、アメリカで大活躍した選手と同じポーズをしてチームを鼓舞する場面があり、ベンチも会場も盛り上がっていました。

大会当日、しきファームの堺龍子さんにお話を伺いました。今年で出場3回目、一番の楽しみはたくさんの人に会えること。今大会に向けて、前はケガで出場できなかったからたくさん練習してきたと熱い思いを話してくださいました。勝利に喜び合う姿に心が温まり、また敗北したチームが仲間同士で励まし合う姿も印象的な大会でした。

(広報委員 丸谷昌広)

堺龍子さん(左)



令和6年度研修報告

9月27日(金) 大阪知的障害児者生活サポート協会・大阪知的障害者福祉協会合同で、権利擁護・虐待防止研修会を約130名の方に参加いただき開催しました。

北摂杉の子会平野様他、グループホームクオアレ様、この家様、三島の郷様にご登壇いただきそれぞれの実践をお聞かせいただきました。

11月8日、概ね勤続3年未満の職員43名に参加していただき、初任者向け研修会を開催しました。研修を通して、当協会松上会長が当時と変わらぬ熱意で今も障害者福祉に従事されていることを改めて教えていただきました。

●初任者研修会の参加者アンケートから今後受けてみたい研修 意思決定支援 こどもの療育 自閉症・強度行動障害について 他事業所との交流など (研修委員長 池田淳)

第42回スポーツフェスタ2024大阪

10月12日から14日の日程で、陸上競技はじめ9種目が実施され、計1337名の選手(支援学校32、事業所50他)たちが白熱した試合を繰り広げました。

当日は大阪福祉協会会員事業所の利用者による選手宣誓に始まり、例年通りスタッフ委員のレクリエーション運営、選手の褒章や総合受付、観客席の保安、競技備品の管理など多岐にわたる運営を担いました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。(行事委員長 伊藤正寿)



●広報委員会のメンバーが変わりました! 長く広報委員をさせていただいていた、淀川地域障害者就業・生活支援センターの水津由依さんが辞められ、新しく隆光学園の奥野恵廣さん、ジェイエス ステージの宮崎恭平さん、地域生活支援センター 摂津市立みきの路の武藤直弥さんが広報委員になりました。

引き続き、吉村周一さん、丸谷昌広さん、山本恵さん、柴崎宏之さんと一緒に力を合わせて紙面の充実を図ってまいります。これからも皆様の応援をよろしくお願いいたします。(広報委員長 松嶋桂子)